Marshall

AMPLIFICATION

JVM210H & JVM205H Head
JVM210C, JVM205C & JVM215C Combo

Owners Manual

Marshall

写真:ジム・マーシャルと娘のビクトリア（マネージング・ディレクター）

ジム・マーシャルのメッセージ

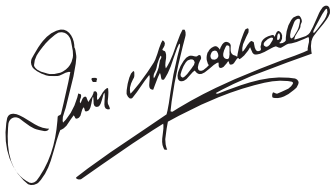
JVMをお買い上げいただきありがとうございます。

1962年にMarshall Amplificationを創設して以来、私はアンプ設計のテクノロジーにおける数々の驚くべき革新や進歩を目にしてきました。マスターボリューム・アンプ、チャンネル切り替え、リバーブ、エフェクトループ、MIDIテクノロジー、スピーカー・エミュレーション、デジタルエフェクト・プロセッシングなど、最近では当たり前に思われている機能の数々です。それでも、初期のマーシャルから今日に至るまで、変わらずに残っている価値があります。それは、確かな技術と信頼性、スタイリッシュな外観、そして何よりもすばらしいマーシャルのトーンです。

私自身もミュージシャンであるため、初心者であれ、ベテランのプレイヤーであれ、ギタリストが創造性を発揮するためには、適切なトーンとフィールを実現することが重要であると理解しています。これを念頭に私は経験豊富な研究開発チームに対し、マーシャル・サウンドの真髄をとらえながら最新技術を採り入れた新しいアンプのシリーズを開発するという任務を与えました。

その結果生まれたのがJVMシリーズです。これはオールバルブ・アンプの新シリーズで、上記の価値のすべてと新しい特長、そしてもちろん、魔法のマーシャル・トーンを合わせ持っています。新しいJVMシリーズは、マーシャルのすばらしいギター製品の歴史を継承するものです。

新しいマーシャルをパートナーにしたあなたの音楽活動のご成功をお祈りします。



技術仕様 – ヘッド

	JVM210Hヘッド	JVM205Hヘッド
パワー出力（RMS）	100W	50W
バルブ	5xECC83 + 4xEL34	5xECC83 + 4xEL34
メインギター・入力インピーダンス	470kΩ	470kΩ
エミュレート出力・レベル	+4dBu	+4dBu
エフェクト・センド・レベル切り替え	−10dBV, +4dBu	−10dBV, +4dBu
重量	22kg	17.5kg
サイズ（mm）	750×310×215	750×310×215

技術仕様 – コンボ

	JVM210Cコンボ	JVM205C コンボ	JVM215C コンボ
パワー出力（RMS）	100W	50W	50W
バルブ	5xECC83 + 4xEL34	5xECC83 + 4xEL34	5xECC83 + 4xEL34
メインギター・入力インピーダンス	470kΩ	470kΩ	470kΩ
エミュレート出力・レベル	+4dBu	+4dBu	+4dBu
エフェクト・センド・レベル切り替え	−10dBV, +4dBu	−10dBV, +4dBu	−10dBV, +4dBu
スピーカー	1×ビンテージ+1 ×ヘリテージ	1 ×ビンテージ+1 ×ヘリテージ	G12B
重量	34.5kg	29.5kg	26.5kg
サイズ（mm）	690×510×265	690×510×265	605×510×265

注：このアンプは欧州連合の電磁場適合性（EMC）規制法［環境E1、E2、 E3］および低電圧機器規制法に準拠しています。

欧州のみ ― 注：JVM210H & JVM210Cの最高入力電流は52アンペアです。
JVM205H, JVM205C & JVM215Cの最高入力電流は26アンペアです。

このアンプは連邦通信委員会（FCC ）規定第15部の定めるB種 デジタル装置の規制に準拠しています。

上記の規制は、装置を住宅地に設置した場合に電波の干渉を防止するために定められています。このアンプは高周波の電気を使用するため、無線周波帯の電波を発生させることがあります。注意書きに従って正しく設置しなければ、無線通信の障害の原因となります。しかし、特殊な設置をした場合は干渉が起こらないという保証はありません。このアンプがラジオやテレビの受信の干渉の原因となった場合（装置の電源を入れたり切ったりすることによって確認できます）、以下の方法によって干渉をなくすようにしてください。

- ◆ 受信アンテナを調整するか、位置を変える。
- ◆ 干渉している受信機からアンプを離す。
- ◆ アンプを受信機とは別の回路にあるコンセントに接続する。
- ◆ ご購入の店、または電気店に相談する。

すべての注意書きに従い、警告を守ってください
この取扱説明書は保存してください

I.チャンネル、モード、メモリ

2チャンネル、100ワットおよび50ワット、オールバルブのJVM アンプをご紹介します。2つのチャンネルにはそれぞれ3つのモードがあり、それぞれ独特のゲイン構造を持つ合計6つのモードからお選びいただけます。フロントパネルには合計16のコントロール・ノブと6つのLED スイッチがありますが、非常に論理的なフロントパネルとリアパネルの配置により、JVM はわかりやすく、操作しやすくなっています。

フロントパネルには、クリーン／クランチとオーバードライブの2つのチャンネルそれぞれの専用コントロールに加え、マスターとリバーブのセクションがあります。各チャンネルに、ボリューム、ベース、ミドル、トレブル、ゲインがあります。リバーブ・セクションには、各チャンネルに1つずつ、合計2つのリバーブ・レベル・コントロールがあり、マスター・セクションには、フットスイッチで切り替えできるマスターボリューム2つに加え、両方のチャンネルに共通のマスター・レゾナンスとプレゼンス・コントロールがあります。

2つのチャンネルには切り替えできるモードが3つずつあります。これらは各チャンネル専用のモード・スイッチで選択します。チャンネルを選択する時は、そのいずれかのモード・スイッチを押します（または付属の4ウェイ・フットスイッチのいずれかのボタンを踏みます。「II.フットスイッチ」を参照してください）。選択したチャンネルの3つのモードをスクロールするには、上記のボタンを押し続けてください。スイッチのLED の色が、グリーン、オレンジ、レッドと変わり、またグリーンに戻ります。スイッチを押すたびにゲイン・レベルが上がり（レッドが各チャンネルで最も高く、グリーンが最も低いゲインです）、それに応じてチャンネルのトーンが調整されます。

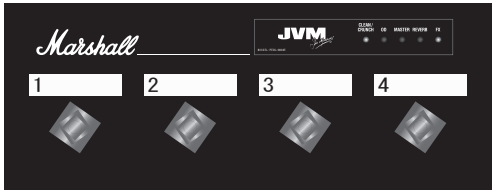
1度離れたチャンネルを再び選択すると、自動的に前回選択されていたモードを呼び出します。2つのチャンネルはそれぞれに新たなモードが選択されるまで前のモードを記憶します。例えば、オーバードライブ・チャンネルのオレンジ・モードを選択し、その後クリーン・チャンネルに移った場合、次にオーバードライブ・チャンネルを選択した時、オレンジのままになっています。

チャンネルとモードの選択の他に、フロントパネルと付属の4ウェイ・フットスイッチで切り替えできる機能は、リバーブ（オン／オフ）、マスターボリューム選択（1または2）、シリーズ／パラレル・エフェクトループ（オン／オフ）があります。この3つのオプションについても、各モードで記憶されます。

まとめると、JVM の6つのモードはそれぞれに前回のリバーブ、エフェクトループ、マスターボリュームの選択を記憶します。さらに、モードのセットアップは、MIDI経由で128 のロケーションの1つに記憶し、呼び出すことができます。

II.フットスイッチ（英国国内の特許出願中）

JVM に付属のプログラミング可能な4ウェイ・フットスイッチは、標準的なギター・ケーブルでアンプに接続できます。



※付属のフットスイッチ・ケーブルはノンシールド・ケーブルであり、ギターには適していませんのでご注意ください。

4ボタン・フットスイッチは、5つのLED があり、クリーン／クランチ、オーバードライブ（OD ）、マスター、リバーブ、エフェクトと記されています。2つのチャンネルのLED はそれぞれグリーン、オレンジ、レッドの3色があり、どのチャンネルとモードが選択されているかをあらわすと同時に、マスター、リバーブ、エフェクトループの状態を表示します。

フットスイッチは、お好きな順番、組み合わせで4つのスイッチそれぞれにフロントパネルの機能（スイッチ保存モード）または完全なチャンネル設定（プリセット保存モード）を割り当て、呼び出すことができます。

例えば、以下のようなプログラミングをすることができます。

スイッチ保存モード

お好きなフットスイッチに、お好きなフロントパネルのスイッチを割り当てます。
チャンネル／モード、リバーブのオン／オフ、マスターボリューム1または2、エフェクトループのオン／オフ。

特定のチャンネルの選択を割り当てたスイッチは、フロントパネルのチャンネル選択スイッチと同様、稼働後は3つのモードのスクロールに用いることができます。

または……

プリセット保存モード

各スイッチをプログラミングして、JVM のボタンのオプションを組み合わせたプリセットを瞬時に呼び出すようプログラミングすることができます。例えば、以下のようなプログラミングをすることができます。

フットスイッチ#1 ＝オーバードライブ・チャンネル、グリーン・モード、マスターボリューム1、リバーブはオン、エフェクトループはオフ。
フットスイッチ#2 ＝クリーン・チャンネル、レッド・モード、マスターボリューム2、リバーブはオフ、エフェクトループはオン。

設定はすべてフットスイッチの中に保存されますので、これを他のJVM アンプに接続しても、フットスイッチの設定はすべて瞬時に呼び出すことができます。

フットスイッチのプログラミング方法の詳細については、この取扱説明書の後半を参照してください。

III.パワーアンプ

JVM のパワーアンプ部はJCM800 2203 および1959 Super leadと同シリーズの50W のアンプに搭載され、伝説の吠えるようなマーシャル・サウンドを生んだモデルと同じものをベースにし、JVM の多様なトーンに合わせて調整されています。パワーアンプ部には、JVM アンプの全体的な音作りに役立つプレゼンスとレゾナンスのコントロールがあります。

JVM はまた、無音レコーディング・モードも備えています。スタンバイ・スイッチをオフにするとパワーアンプ部は停止しますが、アンプの他の部分はすべて操作できます。

IV.スタジオ・クオリティ・リバーブ

マーシャルJVM には、スタジオ・クオリティ・デジタル・リバーブが搭載されています。これはメインシグナルと並列で、バルブによってミックスされます。このリバーブがオンの時はダイレクト・シグナルの劣化はなく、オフの時は回路から外されます。JVM のチャンネルはそれぞれに専用のリバーブ・レベル・コントロールがあります。

リバーブのスイッチングは、チャンネルを切り替える時やリバーブをオフにする時にリバーブのテールが急に断たれないよう設計されており、テールは自然に減衰します。

基本情報

この取扱説明書の裏表紙の内側を開き、アンプのフロントパネルおよびリアパネルの図を見ながら読むことをおすすめします。

電源入力&ヒューズ（16）
付属の取り外しできる電源コードを接続します。お使いのアンプの電源入力のボルト数の定格は、アンプの裏面のパネルに記載されています。

警告：初めて電源コードを接続する際には、お使いの電源がアンプと整合していることをお確かめください。疑問がある場合には、必ず専門家のアドバイスをあおぐか、ご購入のマーシャル販売代理店にご相談ください。

電源ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。ヒューズを取り外したり、定格外のヒューズを使用したりしないでください。

電源スイッチ（17）
アンプの電源をオン／オフします。

注：アンプを移動する時は、アンプの電源を切り、電源コードを抜いた状態にあることを必ず確かめてください。

入力ジャック（18）
必ずギター用シールド・ケーブルをお使いください。スピーカー用ノンシールド・ケーブルは絶対に使わないでください。また、高品質のケーブルをお使いください。疑問がある場合には、ご購入のマーシャル販売代理店にご相談ください。

電源を入れる前に
1. スピーカー／キャビネットが、リアパネルの正しいインピーダンスのラウドスピーカー・ジャック（1）に接続されていることを確かめてください。インピーダンスの適合については、8ページを参照してください。エクステンション・キャビネットを使用する場合は、100ワットのアンプに十分な入力があることを確かめ、適切なスピーカーケーブルで接続してください。スピーカーの接続にギター用シールド・ケーブルは絶対に使わないでください。

警告！
1. 上記にしたがわないことは、アンプ破損の原因になります。

2. スタンバイ・スイッチがオンになっている時は、絶対にスピーカーを接続せずにアンプを使用しないでください。

スピーカーは常時接続したままにすることをマーシャルは推奨しています。

2. フロントパネルのマスターボリューム（6）が両方ゼロになっていることを確認してください。

3. フットスイッチ・ケーブルをフットスイッチに接続し、アンプのリアパネルにあるフットスイッチ・ソケットに接続してください。

4. 付属の電源コードをリアパネルの電源入力に接続してから、コンセントに接続してください。

5. ギターをフロントパネルの入力ジャック・ソケットに接続してください。

6. フロントパネルの電源スイッチをオンにしてください。赤いLED の点灯を確認し、2、3分お待ちください。

7. 2 3分待ってから、スタンバイ・スイッチを入れてください。アンプをしばらく“スタンバイ”状態にしておくことで、バルブが適切な動作温度に温まります。バルブの寿命を延ばすため、演奏の合間に休憩をする時は、スタンバイ・スイッチを使ってアンプをオン／オフしてください。

スタンバイ・スイッチ&無音レコーディング（19）
上述の通り、アンプを使用前に“ウォームアップ”し、出力バルブの寿命を延ばすために、スタンバイ・スイッチと電源スイッチを合わせてお使いください。

アンプがスタンバイ・モードの時は、プリアンプ部全体が公称電圧のまま稼働し、パワーアンプはスタンバイ状態に保たれます。このため、アンプを無音レコーディングまたはプリアンプ目的に使用することができます。

スタンバイがオフになっている場合にのみ、スピーカーを接続せずにアンプを使用することができます。無音レコーディング・モードを終了し、スタンバイ・スイッチをオンにする時は、必ずスピーカーが接続されていることを確認してください。

各チャンネルの説明

JVM のフロントパネルは、チャンネルとマスターの2つの部分に分かれています。チャンネルはそれぞれに3つのモードがあり、各チャンネルのモード・スイッチの色（グリーン、オレンジ、レッド）によって表示されます。プリアンプのゲイン構造は、それぞれのモードに合わせて調整されます。

1. クリーン／クランチ・チャンネル（8）
クリーン／クランチ・グリーン・モード： 3つのモードの中で最もクリーンなモードです。伝統的なクリーン・アンプを踏襲したシンプルでストレートな回路を使用し、シグナルを可能な限りピュアにしました。このモードでは、このような性質のビンテージ・アンプと同様に、チャンネルのボリューム・コントロールは回路から外されます。これが起こるのはJVM の中でこのモードだけです。

クリーン／クランチ・オレンジ・モード： このモードは、クラシックなマーシャルJTM45／1959 “Plexi”モデルと同じプリアンプ構造（ゲイン＋ゲイン＋トーン）を持っていますが、オリジナルよりゲインが多くなっています。

クリーン／クランチ・レッド・モード： このモードは、ハードロックの定番であるマーシャルJCM800 2203 アンプを思わせます。「ゲイン＋ゲイン＋ゲイン＋トーン」というゲイン構造を持っています。

オーバードライブ・チャンネル（9）
オーバードライブ・グリーン・モード:これは“クランチ・レッド”と同様に極限までひずませたJCM800 のサウンドに非常に似ているため、2つのチャンネルを用いて似通っていながら明らかに異なるクランチ・サウンドを設定することもできます。

オーバードライブ・オレンジ・モード： これは“オーバードライブ・グリーン”回路にさらにゲイン部を加え、歌うようなリードやハードロック／ヘビーメタルのトーンにピッタリのサウンドを実現します。

オーバードライブ・レッド・モード： “オーバードライブ・オレンジ”よりさらにゲインを加え、ハイゲインなマーシャル・サウンドを提供します。

チャンネル・セクション

チャンネル・ボタンには、 以下の 2 つの機能があります。

別のチャンネルから移ると、 新たに選択されたチャンネルで前回選ばれていた設定を呼び出します。

同じチャンネルのままボタンを押すと、「グリーン＞オレンジ＞レッド＞グリーン……とモードがスクロールされます。

各モードは、 エフェクト、 リバーブ、 マスターの設定を記憶します。

例：OD オレンジと、 エフェクト、 リバーブを選択している状態から、 CLEAN スイッチを押します。 アンプは前回選ばれていた CLEAN モードの設定を呼び出します（前回の設定が CLEAN グリーンとリバーブだったとします）。 次に OD を選択すれば、 OD レッドと、 前回このモードを選択した時のエフェクト、 マスター、 リバーブの設定に変わります。

リバーブ・スイッチを押すと、 使用中のチャンネルのパラレル・エフェクトループをオン / オフします。

エフェクトループ・スイッチを押すと、 使用中のチャンネルのパラレル・エフェクトループをオン / オフします。

マスターセクション
リバーブ・コントロール （7）

リバーブ・スイッチに加え、 各チャンネルにリバーブ・コントロールがあり、 エフェクトのレベルを個別に設定できます。

マスター1/ マスター 2 （5）

アンプのマスターボリュームを調節します。 各モードで個別に設定でき、 設定は各モードの中で記憶されます。

プレゼンス、 レゾナンス （6）

これはパワーアンプのコントロールで、 スピーカーを通して演奏する時だけ作用します。（無音レコーディング時は影響をおよぼしません）。 パワーアンプが接続されたスピーカーにどのように反応し、 アンプがどのくらいスピーカーに作用するかに営業をおよぼします。

レゾナンス・コントロールをあげると、 スピーカーの自然なレゾナンスが強調され、 ベースのレスポンスが向上します。 同様に、 プレゼンス・コントロールを上げると、 スピーカーの高周波が強調され、 高周波のレスポンスが向上して、 サウンドにプレゼンスが加わります。

プレゼンスとレゾナンスは、 強力なパワーアンプのイコライザーとなり、 完全にオフにした時のミドルをブーストした「^」形のレスポンスから、 反時計回りに回した時のミドルを抜いた「v」形のレスポンスまで、 さまざまなレスポンスを実現します。 これらのコントロールの効果は、 接続されたスピーカーの種類によって大きく異なります。 高いレゾナンス設定では、 スピーカーのコーンに負担がかかり過ぎないよう注意が必要です。

エフェクトループ （4）

これはプログラミング可能なエフェクトループで、 リアパネルにミックス・コントロールがあります。 プリアンプの後ろ、 リバーブトシリアル・ループ回路のすぐ前にあります。 エフェクト・スイッチを入れると、 このエフェクトループが稼動します。 後述のシリアル／パラレル・ループの操作説明を参照してください。

フットスイッチ /MIDI プログラム （3）

このスイッチには、 以下の2つの機能があります。

スイッチを1度押すと、 フットスイッチ・プログラム・モードに入り、 赤いライトが点灯したままになります。

スイッチを2度押すと、 MIDI プログラム・モードに入り、 赤いライトが点滅します。

フットスイッチ・プログラムと使用方法

JVM シリーズには、 設定可能な新型のフットスイッチが付属しています。 フットスイッチをアンプに接続するには、 標準的なモノラル 1/4” ジャック・ケーブルが必要です。 ギター用ケーブルはどんなものでも使用可能で、 長さの制限はありません。

フロントパネル・フットスイッチ /MIDI プログラム・スイッチがオフの時は、 フットスイッチは上書き防止モードで稼動し、 スイッチが押し込まれた瞬間に命令を実行します。

フットスイッチ・プログラム（赤いライトが点灯）に入るとフットスイッチをプログラミングできます。 フットスイッチとアンプは完全に稼動し続けますが、 通常のモードとは異なり、 フットスイッチを放した時に命令が実行されます。

それぞれのフットスイッチには、 プリセット保存とスイッチ保存という2つの稼動モードがあります。

プリセット保存モードでは、 ドノフットスイッチも現在のアンプの状況を保存するよう設定できます。
使用中のチャンネル、 マスター、 エフェクト、 リバーブの状態が保存され、 同じフットスイッチを押した時によびだされます。
現在の状態を保存するには、 以下の簡単な手順に従ってください。

アンプをフットスイッチ・プログラム・モードにセットします。（赤いライトが点灯）。

希望のフットスイッチを 3 秒ほどおしたままにします。

エフェクト・フットスイッチの LED が何度か点滅し、プリセットが保存されたことを示します。

スイッチ保存モードでは、 どのフットスイッチもフロントパネル・スイッチと同じ機能を持つよう設定できます。 アンプはフロントパネルで操作した時と同様に反応します。

フロントパネル・スイッチはすべてのフットスイッチに割り当てられます。 唯一の例外はフットスイッチ /MIDI プログラム・キーで、 これはフットスイッチに割り当てることができません。

フロントパネル・キーのいずれかのキー（フットスイッチ /MIDI プログラム・キーを除く）をいずれかのフットスイッチに割り当てるには、 以下の簡単な手順に従ってください。

アンプをフットスイッチ・プログラム・モードにセットします。（赤いライトが点灯）。

希望のフットスイッチを3秒ほど押したままにします。

フットスイッチを押した状態で、 3秒以内に、 割り当てたいフロントパネル・スイッチを押します。

エフェクト・フットスイッチの LED が何度か点滅し、 スイッチが割り当てられた事を示します。

これ以降、 選択されたフットスイッチは、 割り当てられたフロントパネル・スイッチと同様に機能します。

キーやプリセットは、 制限なく、 お好きな順番で割り当てることができます。（フットスイッチの設定は、 アンプではなく、 フットスイッチ自体に保存されます。 アンプの設定の変更は、 フットスイッチの設定に影響をおよぼしません。
フットスイッチはホットスワップ可能で、 接続後に自動的にアンプと同期します。 しかし、 フットスイッチ・コードはフットスイッチ側に接続してからアンプに接続する事をおすすめします。

MIDI の操作

フットスイッチ /MIDI プログラム・スイッチを2回押すと、 アンプは MIDI 待機モードに入り、 有効な MIDI プログラム変更命令を受信するまで LED が点滅します。

MIDI プログラム変更命令を受信すると、 アンプは現在の状態（チャンネル、エフェクト、リバーブ、マスター設定）を受信した MIDI プログラム番号に保存します。 MIDI プリセットは最大 128 まで保存できます。

MIDI チャンネルについて：デフォルトではアンプは MIDI チャンネル #1の信号を受信するよう設定されていますが、 以下の手順に従い、 16 ある MIDI チャンネルのうちのどのチャンネルの信号を受信するようにも設定できます。

アンプの電源をきります（スタンバイではなく、 電源スイッチ）。

フットスイッチ /MIDI プログラム・スイッチを押したままにします。

アンプの電源を入れます（電源スイッチ）。

フットスイッチ /MIDI プログラム・スイッチを放します。 ライトが点滅します。

MIDI ペダルボードまたはその他の MIDI 機器を使って、 MIDI コマンドを何か送ります。

アンプはどのチャンネルが入ってきたかを探知し、 その MIDI チャンネルの信号だけを受信するよう設定します。これ以降、以前に保存した MIDIプリセットは、 以前にどのチャンネルをしようしたかにかかわらず、 新しいチャンネルだけで稼動します。 これにより、 他の外部機器と MIDI の衝突が発生しても、 迅速に再設定ができます。

選択した MIDI チャンネルから出たい時は、MIDI データを待ちながらフットスイッチ /MIDI プログラム・スイッチを押します。

シリアル／パラレル・エフェクトループ(12)

JVMには、シリーズ／パラレル・エフェクトループが搭載されています。外部のエフェクト機器の入力をJVMのセンド・ジャックに接続し、エフェクトの出力をJVMのリターン・ジャックに接続します。前述の通り、このエフェクトループはフロントパネルからの操作でバイパスでき、エフェクトの量はミックス・コントロールで調節できます。

+4dBu／−10dBVスイッチを使い、プロ使用の機器（+4dBu設定）またはエフェクト・ペダルなどギター・レベルのエフェクト（−10dBV設定）に合わせてループを設定します。

ミックスをウェットに設定するとシグナルはすべて外部のループを通り、ドライへ回すにつれてダイレクト・シグナルが加わります。これにより、ダイレクト・シグナルを失ったり、劣化させたりせずにお好みの量の外部エフェクトをミックスできます。

ウェットとドライのシグナルをミックスする時は、外部のエフェクト・プロセッサの出力はダイレクト・シグナルを除去するよう設定します。そうしなければ、再びアンプの中でミックスされる時に、望ましくない位相調整効果が発生する可能性があります。外部のエフェクトを接続後にアンプのサウンドが薄くなった場合は、プロセッサの出力からダイレクト・シグナルが戻っていないことを確認してください。

注：外部のプロセッサを接続せずにエフェクトループをオンにしてミックス・コントロールをウェットに設定すると、アンプはミュートされます。

パワーアンプ・インサート／シリアル・ループ(13)

マスター・コントロールのすぐ前に接続されたパッシブ・ループです。これはライン・レベルのループであるため、シグナルの劣化を防ぐため、ヘッドルームが多い装置の使用をおすすめします。リターン・ジャックだけに接続することにより、JVMのパワーアンプ部がプリアンプ部に優先されます。

マスター・コントロールとエミュレーテッド・ラインアウトはシリアル・ループの後ろにあるため、外部のプリアンプを使用中でも、これらの機能を利用できます。このループはバイパス・スイッチを押して回路から外すことができますが、シリーズ／パラレル・ループと違い、このスイッチはプログラミングできません。

エミュレーテッド・ラインアウト(14)

マスターボリュームより前のシグナルを、4x12スピーカー・キャビネット・エミュレーターを通して処理し、電子的にバランスをとってこのコネクターから出力します。

フットスイッチ(15)

付属のフットスイッチを標準的なモノラル1／4″ジャック・ケーブルを使って接続します。付属のもの以外のフットスイッチを使用した場合は、何の効果もなく、アンプに無視されます。

MIDIイン／スルー(16)

お使いの外部のMIDI装置をMIDIインDINソケットに接続します。このコネクターの中のシグナルのコピーがMIDIスルー・ソケットから出力され、MIDI機器をデイジーチェーン方式で接続できます。JVMは入力されるデータを受信するだけでMIDIのコマンドを送信することはできませんのでご注意ください。

スピーカー出力(11)

リアパネルには5つのスピーカー出力があり、それぞれに指定のインピーダンスが記載されています。

16Ω：16Ωのギター・キャビネットを接続します。

8Ω：8Ωギター・キャビネットを1台または16Ωのギター・キャビネットを2台接続します。

4Ω：4Ωのギター・キャビネットを1台または8Ωのギター・キャビネットを2台接続します。
警告：JVMアンプには5つのスピーカー出力がありますが、定格を上回るスピーカーの接続を試みないでください。安全な組み合わせは、1x16Ω、1x8Ω、1x4Ω、2x16Ω、2x8Ωです。この他のスピーカー構成はパワーアンプ部に負担をかけ、バルブまたは出力トランスの故障の原因になります。

ヒント＆アドバイス

工場出荷時リセット

MIDIプリセットをすべて消去し、MIDIチャンネル#1を受信するよう設定します。1度消去されたメモリは回復できませんのでご注意ください。

アンプの電源を切ります（スタンバイではなく、電源スイッチ）。

クリーン／クランチ・チャンネル・スイッチを押したままにします。

アンプの電源を入れます（スタンバイではなく、電源スイッチ）。

4つのチャンネルの赤いライトが点滅します。

スイッチを放します。
出荷時リセットを確認するには、CRUNCHモード・スイッチを押してください。

中止する場合は、いずれか他のキーを押します。

フットスイッチ・リセット：
フットスイッチをリセットして工場出荷時の状態に戻すことができます。以下の通りの手順に従ってください。

フットスイッチのコードを取り外します。

フットスイッチ#6（右スイッチ）を押し続けます。

フットスイッチ・コードを接続します。

スイッチを放します。エフェクトのライトが点滅します。

フットスイッチのメモリを消去する場合は、スイッチ#5を押します。メモリを保存する場合は、#1から#4までのいずれかのスイッチを押します。1度消去されたメモリは回復できませんのでご注意ください。

スイッチを放すと、フットスイッチはアンプと同期します。

工場出荷時のデフォルトは以下の通りです。
フットスイッチ#1：CLEANモード
フットスイッチ#2：CRUNCHモード
フットスイッチ#3：OD1モード
フットスイッチ#4：OD2モード
フットスイッチ#5：マスター
フットスイッチ#6：リバーブ

ヒント

ヒント1：同じチャンネルの別のモードを、バランスをとるために異なるボリュームで使用することが可能です。これは特にCLEANチャンネルに有効です。フットスイッチのプリセットを2つ作り、マスター1またはマスター2をいずれかのモードに割り当てることによって簡単に実現できます。

シリアル／パラレル・エフェクトループにエフェクトを接続しない場合、ミックス・コントロールは、いずれかのチャンネルのもう1つのボリューム・コントロールとして使用することができます。

ヒント2：チューナー出力によってアンプをミュートするためには、チューナーをエフェクト・センドに接続し、CLEANチャンネルを選択します。ミックス・コントロールをウェットに設定し、エフェクトループをオンにします。このプリセットを前述の方法で保存し、例えば“チューナー”とラベルをつけます。当然、この設定では他のエフェクトをループに接続することはできません。

ヒント3：別のプリアンプを使用してJVMのチャンネルと組み合わせる場合は、外部のプリアンプ出力をパラレル・ループのリターンに接続し、ミックスをウェットに設定します。スプリッターを使い、外部のプリアンプ入力をアンプの入力に接続します（グラウンドループを防止するため、アクティブ・スプリッターを使用して高いインピーダンスを維持するか、絶縁したものを使用する必要があるかもしれません）。エフェクトループをオン／オフすることによって外部のプリアンプとJVMプリアンプを切り替えることができます。

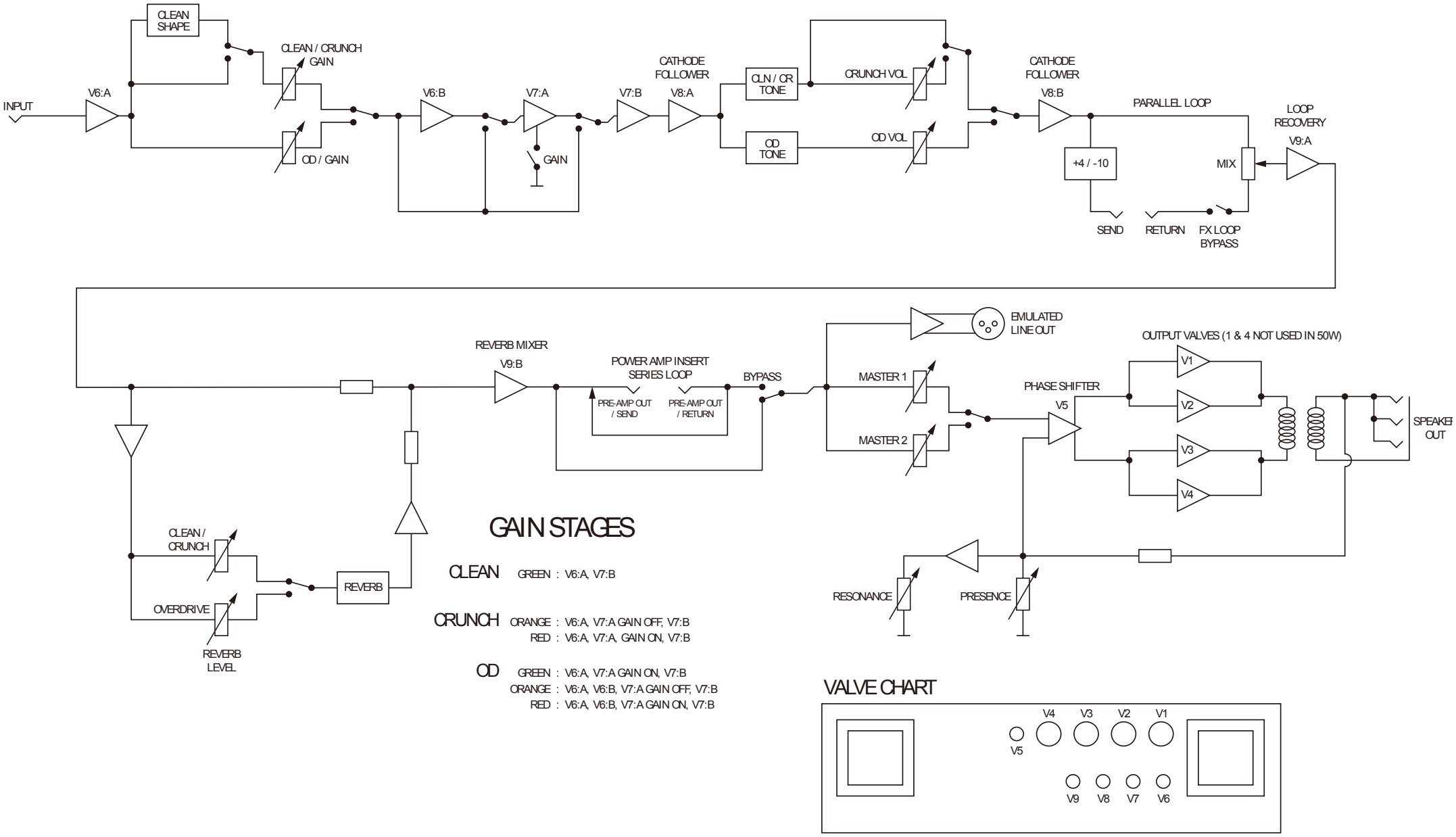
JVMのリバーブ回路はパラレル・ループの後ろに接続されているため、外部のプリアンプにリバーブを加えるプリセットを作ることもできます。リバーブをオンにし、いずれかのチャンネルに、リバーブをオン、エフェクトをオンにしたプリセットを作り、フットスイッチに割り当てます。「外部のプリアンプ＋リバーブ」の設定になります。

さらに、リバーブを割り当てたのと同じ方法で、外部のプリアンプと内部のプリアンプの両方に異なるマスターレベルを割り当てることもできます。

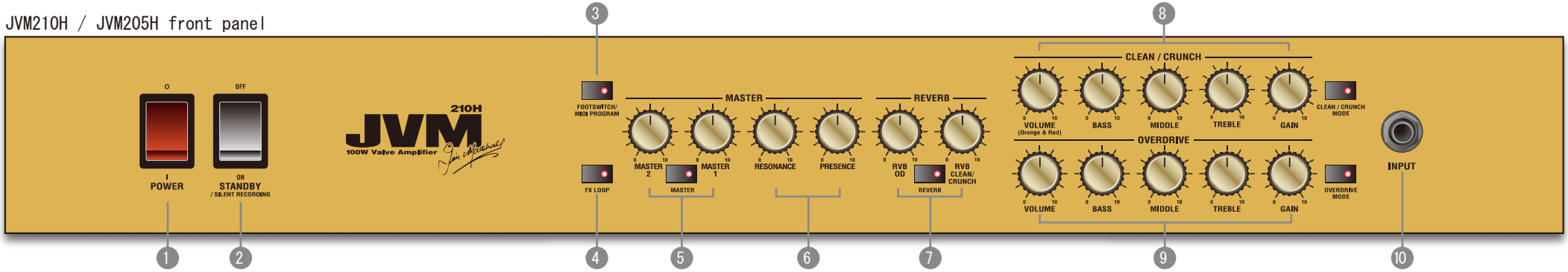
ヒント4：2つのヘッドを同時に使用するためのおすすめの手順は、“マスター”ヘッドのプリアンプ出力を“スレーブ”ヘッドのパワーアンプ入力に接続し、“スレーブ”アンプのパワーアンプ・インサートをアクティブにします。

両方のヘッドのマスターボリュームを調節するには（マスターボリュームの回路はループの後ろに配置されているため）、両方のアンプを同じようにプログラミングしてMIDIコントロールを使用することをおすすめします。どちらかのアンプのMIDIインをもう1つのアンプのMIDIスルーに接続し、ペダルボードまたはMIDI機器を残ったほうのMIDIインに接続します。

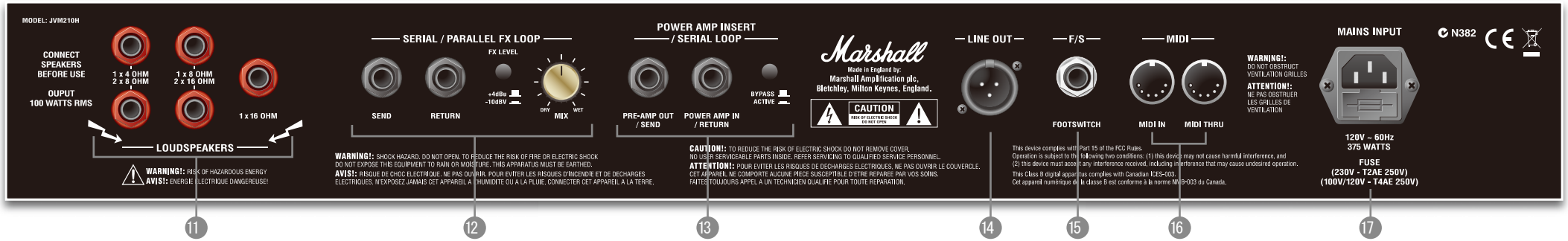
すべての注意書きに従い、警告を守ってください
この取扱説明書は保存してください


CLEAN SHAPE
CLEAN / CRUNCH GAIN
OD / GAIN
INPUT
V6:A
V6:B
V7:A
GAIN
V7:B
CATHODE FOLLOWER
V8:A
CLN / CR TONE
OD TONE
CRUNCH VOL
OD VOL
CATHODE FOLLOWER
V8:B
PARALLEL LOOP
+4 / -10
SEND
RETURN
FX LOOP BYPASS
MIX
LOOP RECOVERY
V9:A
REVERB MIXER
V9:B
POWER AMP INSERT SERIES LOOP
PRE-AMP OUT / SEND
PRE-AMP OUT / RETURN
BYPASS
EMULATED LINE OUT
MASTER 1
MASTER 2
OUTPUT VALVES (1 & 4 NOT USED IN 50W)
V1
V2
V3
V4
PHASE SHIFTER
V5
SPEAKER OUT
RESONANCE
PRESENCE
CLEAN / CRUNCH
OVERDRIVE
REVERB LEVEL
REVERB
GAIN STAGES
CLEAN GREEN : V6:A, V7:B
CRUNCH ORANGE : V6:A, V7:A GAIN OFF, V7:B
RED : V6:A, V7:A, GAIN ON, V7:B
OD GREEN : V6:A, V7:A GAIN ON, V7:B
ORANGE : V6:A, V6:B, V7:A GAIN OFF, V7:B
RED : V6:A, V6:B, V7:A GAIN ON, V7:B
VALVE CHART
V4 V3 V2 V1
V5
V9 V8 V7 V6

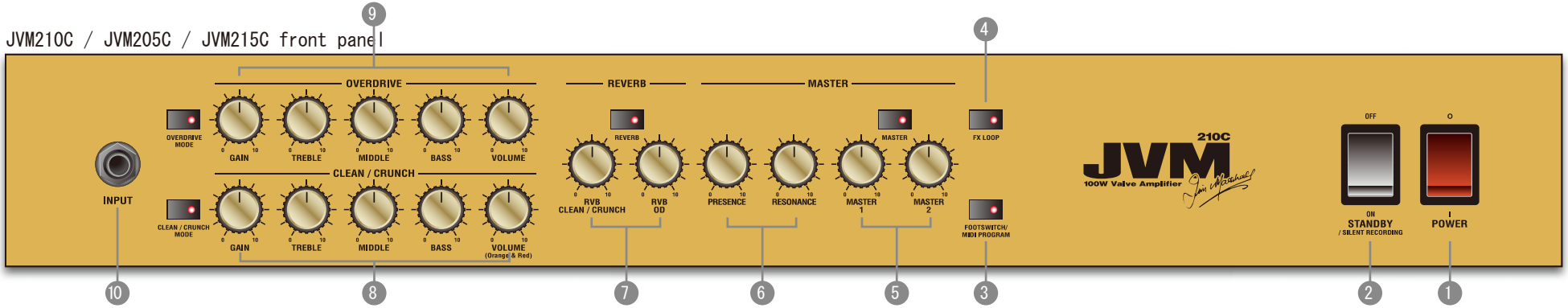
JVM210H / JVM205H front panel



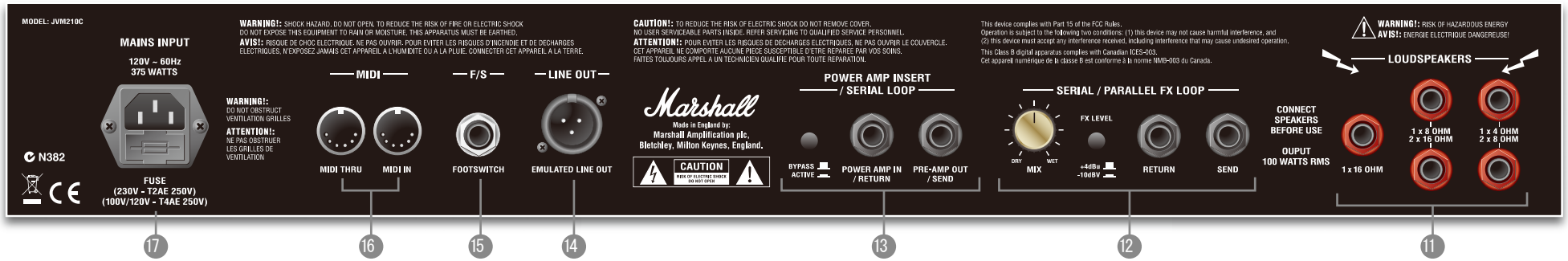
JVM210H / JVM205H rear panel


MODEL: JVM210H
CONNECT SPEAKERS BEFORE USE
OUPUT 100 WATTS RMS
1 x 4 OHM 2 x 8 OHM
1 x 8 OHM 2 x 16 OHM
1 x 16 OHM
LOUDSPEAKERS
WARNING!: RISK OF HAZARDOUS ENERGY
AVIS!: ENERGIE ELECTRIQUE DANGEREUSE!
SERIAL / PARALLEL FX LOOP
FX LEVEL
SEND
RETURN
DRY
MIX
WET
+4dBu
-10dBV
WARNING!: SHOCK HAZARD. DO NOT OPEN. TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS EQUIPMENT TO RAIN OR MOISTURE. THIS APPARATUS MUST BE EARTHED.
AVIS!: RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE. NE PAS OUVRIR. POUR EVITER LES RISQUES D'INCENDIE ET DE DECHARGES ELECTRIQUES, N'EXPOSEZ JAMAIS CET APPAREIL A L'HUMIDITE OU A LA PLUIE. CONNECTER CET APPAREIL A LA TERRE.
POWER AMP INSERT / SERIAL LOOP
PRE-AMP OUT / SEND
POWER AMP IN / RETURN
BYPASS
ACTIVE
CAUTION!: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK DO NOT REMOVE COVER. NO USER SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.
ATTENTION!: POUR EVITER LES RISQUES DE DECHARGES ELECTRIQUES, NE PAS OUVRIR LE COUVERCLE. CET APPAREIL NE COMPORTE AUCUNE PIECE SUSCEPTIBLE D'ETRE REPAREE PAR VOS SOINS. FAITES TOUJOURS APPEL A UN TECHNICIEN QUALIFIE POUR TOUTE REPARATION.
Marshall
Made in England by: Marshall Amplification plc, Bletchley, Milton Keynes, England.
CAUTION
LINE OUT
F/S
FOOTSWITCH
MIDI
MIDI IN
MIDI THRU
This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.
Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.
WARNING!: DO NOT OBSTRUCT VENTILATION GRILLES
ATTENTION!: NE PAS OBSTRUER LES GRILLES DE VENTILATION
MAINS INPUT
120V ~ 60Hz
375 WATTS
FUSE
(230V - T2AE 250V)
(100V/120V - T4AE 250V)
N382
11
12
13
14
15
16
17

JVM210C / JVM205C / JVM215C front panel



JVM210C / JVM205C / JVM215C rear panel


MODEL: JVM210C
MAINS INPUT
120V ~ 60Hz
375 WATTS
FUSE
(230V - T2AE 250V)
(100V/120V - T4AE 250V)
N382
WARNING!: DO NOT OBSTRUCT VENTILATION GRILLES
ATTENTION!: NE PAS OBSTRUER LES GRILLES DE VENTILATION
MIDI
MIDI THRU
MIDI IN
F/S
FOOTSWITCH
LINE OUT
EMULATED LINE OUT
WARNING!: SHOCK HAZARD. DO NOT OPEN. TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS EQUIPMENT TO RAIN OR MOISTURE. THIS APPARATUS MUST BE EARTHED.
AVIS!: RISQUE DE CHOC ELECTRIQUE. NE PAS OUVRIR. POUR EVITER LES RISQUES D'INCENDIE ET DE DECHARGES ELECTRIQUES, N'EXPOSEZ JAMAIS CET APPAREIL A L'HUMIDITE OU A LA PLUIE. CONNECTER CET APPAREIL A LA TERRE.
CAUTION!: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK DO NOT REMOVE COVER. NO USER SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.
ATTENTION!: POUR EVITER LES RISQUES DE DECHARGES ELECTRIQUES, NE PAS OUVRIR LE COUVERCLE. CET APPAREIL NE COMPORTE AUCUNE PIECE SUSCEPTIBLE D'ETRE REPAREE PAR VOS SOINS. FAITES TOUJOURS APPEL A UN TECHNICIEN QUALIFIE POUR TOUTE REPARATION.
Marshall
Made in England by: Marshall Amplification plc, Bletchley, Milton Keynes, England.
CAUTION
POWER AMP INSERT / SERIAL LOOP
BYPASS
ACTIVE
POWER AMP IN / RETURN
PRE-AMP OUT / SEND
SERIAL / PARALLEL FX LOOP
DRY
MIX
WET
FX LEVEL
+4dBu
-10dBV
RETURN
SEND
This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.
Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.
WARNING!: RISK OF HAZARDOUS ENERGY
AVIS!: ENERGIE ELECTRIQUE DANGEREUSE!
LOUDSPEAKERS
CONNECT SPEAKERS BEFORE USE
OUPUT 100 WATTS RMS
1 x 16 OHM
1 x 8 OHM 2 x 16 OHM
1 x 4 OHM 2 x 8 OHM
17
16
15
14
13
12
11